第13回日本少年野球 下呂市長杯争奪岐阜ジュニア大会規定

1 チームの登録選手は、11 名以上 25 名以内とし試合時は 20 名がベンチ入りできる。登録選手のうちから選手 20 名以内を選抜し、試合を行う。また、同一日のダブルヘッダー及び翌日等の試合においても、試合毎に登録選手から 20 名以内の選出を可能とする。

2 出場選手は本大会登録締切日現在において連盟へ登録済みの者に限る。

3 審査証は選手・指導者とも当年度発行のものに限る。

4 登録選手およびチーム責任者（代表またはそれに代わる責任ある者でチーム責任者証を携帯している者）、登録された監督、コーチ、マネージャーのみベンチに入ることが出来る。チーム責任者、監督、コーチが、登録証を携帯していない場合、選手が審査証を携帯していない場合は、いかなる理由があろうともベンチに入ることはできない。ただし、チーム責任者、監督、コーチは試合開始までに間にあった場合は、審査のうえ、ベンチ入りすることができる。（マネージャーの登録証携帯の有無は問わない）また、選手は試合終了までに間にあった場合は、審査のうえ、その時点でベンチ入りを認める。

なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合ができない。

5 組み合わせの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。

6 監督（背番号 60）、コーチ（背番号 50）は選手と同じユニフォームを着用すること。

7 試合開始時刻 60 分前に試合場に到着し、直ちにオーダー表を5部、投手投球数記録表（副）3部（正）1部および大会初戦の時は、直前大会参加報告書を大会本部に提出のうえ所定の審査を受けなければならない。

8 オーダー表交換時に、監督、審判員立会いのもと、両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。

9 試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れないときは、球場責任者と責任審判員が協議して、没収試合を宣言することができる。

10 試合方法など

1 各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から2時間（決勝戦は2時間 20 分）を超えた場合、新しいイニングには入らない（後攻チームの得点が先行チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則7.01（4）により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。

試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデットゲームとする。

2 4回終了時（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4回表終了時）10 点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。

3 7回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長8回（決勝戦は 10 回）あるいは試合開始から2時間（決勝戦は2時間 20 分）を超えては（どちらか早い方）新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。（競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照）

4 試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案してシートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。

11 投球制限など　ジュニアの部

1 1日最大 80 球とし、連続間する 2 日間で 120 球とする。連続する 2 日間で 80 球を超えた場合は 3 日目は投球を禁止する。

また 3 連投（連続する 3 日間）する場合は 1 日の投球回数を 40 球以内とし 4 連投（連続する 4 日間）は禁止する。

2 大会中は 1 日 80 球投球後、翌日投球を休めば 3 日目 80 球の投球を可とする。

3 1～2 を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。

制限数を超過した球数は投球にカウントしない。

4 連続する 2 日間で 80 球を超えた投手並びに 3 連投した投手は、翌日は捕手としても出場できない。

5 ボークは投球数にしない。

6 雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。

7 ダブルヘッダーの場合で 2 試合に登板した場合は連続 2 日間投球した事とする。 1 試合のみ投球した場合は 1 日の投球とする。

12 指示・伝達など

1 監督またはコーチの指示、伝達は1試合で攻撃2回と守備2回の合計4回とする。延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれで1回の指示、伝達を認める。（選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない。）

2 守備側の投手に対する指示、伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。

3 内野手が2人以上投手のところに行った時も1回に数える。

4　指示、伝達は審判がタイムを宣言してから「30 秒以内」とする。

5　1イニングで同一の投手に対して指示、伝達が2回目となれば、自動的に投手の交代となる。その投手は他の守備位置につくことができるが、同一イニングでは投手として登板することはできない。ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。

13　審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの運用についての確認は認める。

14　監督またはコーチが投手に指示などをするときは、マウンドのところで行うこと。（ベンチからは駆け足で）

15　2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。

16　ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。

17　投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。

18　各チームは、同色のヘルメット7個以上、捕手の規定防具（マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファールカップ）2組を備えること。一体型捕手マスクの場合はヘルメット、スロートガードを除く。

19　ユニフォーム、バット、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。

20　捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。

21　グラウンドの都合でグラウンド専用規定が別に制定された場合は、それに従うこと。

22　ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。

23　試合終了後、両チームの選手はグラウンド整備に協力すること。

24　本大会は 2021 年度野球規則および（公財）日本少年野球連盟規則ならびにローカルルールを適用する。

25　本規定に定めのない事項が発生した場合は、関係者と協議の上、大会主催者が下した判定を最終決定とする。

参考

野球規則7.01(4)

7.02(a)によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドゲームは、球審が打ち切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する。

【注】我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。

(1) ビジティングチームがその回の表で得点してホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

(2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点かまたはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

【タイブレーク実施細則】

(1) 特別規則

(イ) 延長8回あるいは試合開始から2時間を超えて（いずれか早い方）、決勝戦は 10 回あるいは2時間 20 分を超えて（いずれか早い方）、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。

(ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打者の順とする。

(ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打者が二塁走者、そして二塁走者の前の打者の者が三塁走者となる。

(二) この場合の代打および代走は認められる。

(2) チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。

(イ) 投手記録

・規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。

・完全試合は認めない。

・無安打、無得点試合は認める。

(ロ) 打撃成績

・規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁刺、得点、残塁などは記録する。

・規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。

以上